教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日　令和元年５月 20 日

グループ名	教育研究グループ	フリガナ 代表者氏名	フジハシヨシユキ 藤　橋　義　之
学校名	武蔵野市立大野田小学校	電話番号	０４２２－５１－０５１１
研究テーマ	外国語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～授業スタイルの確立と単元計画の作成を通して～		
研究期間	平成３０年４月１日から令和２年３月３１日		
研究結果の概要 ※詳細は別紙により報告	**１　研究仮説** 外国語活動、外国語科で授業のスタイルを確立したり、実態に合った単元計画を作成したりして、学校全体で学び方を共通理解することで、より段階的に外国語に慣れ親しむことができ、外国語でのコミュニケーションに自信をもち、コミュニケーションを図るために思考する子供の姿が増えるであろう。 **２　研究の内容** （１）外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方に基づいた発達段階に応じた指導内容の共通理解 （２）環境整備 ・ＩＣＴ機器やワークシートの工夫などを通して、可視化、焦点化を図ること ・校内環境の整備（教室掲示や廊下、階段、ワールドルームなど） （３）児童の実態と教員の意識調査、授業における課題の集約 ・年度初めの児童（３年～６年）への意識調査及び学年末の意識調査の集計とその分析 ・アドバイザーによる授業参観と課題の整理（教員の英語力の向上） （４）授業スタイルの確立 ・コミュニケーション（反応する活動）に重点を置くこと（２往復以上の会話を目安） (Good! Nice! Fantastic! Amazing! I see. Me, too. Oh, can you. How about you?) ・コミュニケーション（反応する活動）に使う基本的な表現方法の系統的な指導 ・シチュエーションに合った場面でたくさん聞かせる。 ・音を大切に扱う（聞く甲斐のある内容にする。整った文法のフルセンテンス。英語らしい強弱。）→We can!の活用 （５）授業スタイルと評価方法の一体化 ・今までできなかったことができるようになったかに注目させる評価の工夫 ⇒Can do リストを取り入れた評価カードの検討 **３　研究の方法** 年間７回（１年～６年、特別支援学級）の研究授業を通して成果と課題を共有。 **４　研究の成果と課題** 児童及び教員の意識調査、振り返りカードを基に成果と課題を分析（詳細は別紙）		
その他 特記事項	研究発表　令和２年１月２４日（金）		

Ⅰ　研究の概要

１　研究の背景と研究主題

学習指導要領改訂の背景には人工知能の進化や時代の急激な変化が想定されている。そこで、「子供たちに、情報化やグローバル化などの急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現する。」という大きな目標が設定された。

それを受けて、改定の基本的な考え方の１つに「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する現行指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成」というものがある。

知識の理解の質をさらに高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、学習の中で、認識から思考へ、さらに思考から表現へつながる学習過程を明示している。

具体的には以下の３点のようになっている。

①学ぶことに興味や関心を持ち、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」。

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」。

③知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」。

今回の改訂では小学校中学年に「外国語活動」が導入され、中学年から「聞くこと」「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しませ、学習の動機付けを高め、高学年では段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、教科としての「外国語科」を位置付け、中学校への接続を図ることが重視された。

「外国語活動」及び「外国語」の目標の冒頭には以下のように示されている。

> **外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，話すことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。【外国語活動】（３年・４年）**

> **外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。【外国語科】（５年・６年）**

外国語科の目標はコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することであり、そのために**「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、「生きる力」の三つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関わる外国語教育特有の資質・能力を育成すること**が求められている。また、内容構成も外国語教育の目標が確実に身に付けられるように小・中・高等学校一貫した《「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やりとり）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」》５つの領域で目標を設定している。

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」については、学習指導要領「解説」では以下のように説明されている。

> **「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」**とは（中略）**「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」である。**

外国語や文化を単なる知識として捉えるのではなく、**社会や世界の中でどのように外国語が用いられているのか、どのような文化が息づいているのかと捉えたり、外国語を通して異なる文化をもつ他者と関わったりすることに着目することが外国語活動・外国語科の見方**であること、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて考えたり、判断したり、表現したりすること**が外国語活動・外国語科で育成すべき**考え方**であることが示されている。

そこで、本校では、目指す児童像を明確にし、外国語活動・外国語科の目標を達成するための素地となる、コミュニケーションにおける見方・考え方について発達段階に応じた指導内容について共通認識を図っていく。そして、外国語による様々な活動を通して、コミュニケーションの大切さと有用性を知り、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指す。

教員へのアンケート結果から、外国語活動や外国語科を指導する際に、発音や授業のすすめ方、教材、ＡＬＴとの連携、評価方法について戸惑いや不安があることが分かった。

本校では、まず１単位時間の授業スタイルを確立することから研究をスタートする。そのために、活動事例や授業のすすめ方の研修、環境整備等を行う。また、授業実践から課題としてあがるであろうであろう単元計画についても、段階的に研究をすすめていく。

このような背景や教員の実態を踏まえ、本校の研究主題を次のように設定した。

研究主題

外国語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～授業スタイルの確立と単元計画の作成を通して～

２　目指す児童像

（１）すすんで学習する子　学びに向かう力, 人間性等に関する目標

外国語や外国の文化に興味や関心をもって、取り組む子
自分の気持ちや考え方を伝えたいという思いをもって活動するする子

（２）外国語に慣れ親しむ子　知識・技能に関する目標

外国語や外国の文化にふれる活動を通して、コミュニケーションの大切さに気付く子

（３）コミュニケーションを図ろうとする子

思考力・判断力・表現力等に関する目標
コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、必要な言語材料を選び、相手に伝わるよう、思考・判断しながら表現する子

３　研究仮説

外国語活動、外国語科で授業のスタイルを確立したり、実態に合った単元計画を作成したりして、学校全体で学び方を共通理解することで、より段階的に外国語に慣れ親しむことができ、外国語でのコミュニケーションに自信をもち、コミュニケーションを図るために思考する子供の姿が増えるであろう。

４　研究の内容

（１）外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方に基づいた発達段階に応じた指導内容の共通理解

・外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方に基づいた指導内容の検討
・外国語についてのＤＶＤの活用

（２）環境整備

・「慣れ親しむ」ための環境設定と実践例（低中学年を中心に）
・ＩＣＴ機器やワークシートの工夫などを通して、可視化、焦点化を図ること
・公平な学習環境を整えること（座席による見え方や個別の特性にも配慮する）
・よりよいコミュニケーション（５つのポイントなど）の掲示
・リアクションワードの掲示（特に高学年）
・教材の整理、デジタル教科書の使い方
・校内環境の整備（教室掲示や廊下、階段、ワールドルームなど）
・学校全体で英語に向かう雰囲気作り　※英語集会、英語での交流、英語による放送など
・ＡＬＴとの打ち合わせ時間の設定

（３）児童の実態と教員の意識調査、授業における課題の集約

・教員自身が「やればできる」という意欲をもつこと
・教員の英語力の向上（中学校２年生までの内容の復習）
・年度初めの児童（３年～６年）への意識調査及び学年末の意識調査の集計とその分析
・授業実践後に授業における課題集約
・アドバイザーによる授業参観と課題の整理

（４）授業スタイルの確立

・１単位時間における、目標の明確化（かつシンプルに）
・英語での基本的なあいさつ、指示、ほめ方（クラスルームイングリッシュ）などの確認
・授業の流れの板書での掲示、単元計画の教室掲示
・主体的で深い学びにつながるよう、テンポだけにとらわれず、時にはじっくり考えさせる場面も設定していく。
・常に学びの流れを意識していく①聞くこと②見ることや話すこと③書くこと
・デモンストレーションや日本語での指示などで、見通しを持たせること
・練習はスモールステップで繰り返す　例　先生と児童⇒列ごと⇒班ごと⇒ペアなど
・シチュエーションに合った場面でたくさん聞かせる。
（機械的な繰り返し練習はあまりしない。）身に付いていない場合は、戻って何度聞かせる。
・音を大切に扱う（聞く甲斐のある内容にする。整った文法のフルセンテンス。英語らしい強弱。）→We can!の活用
・コミュニケーション（反応する活動）に重点を置くこと（２往復以上の会話を目安とする）
（Good! Nice! Fantastic! Amazing! I see. Me, too. Oh, can you. How about you?）
・コミュニケーション（反応する活動）に使う基本的な表現方法の系統的な指導
・理由を述べることができる力をつける
⇒自分の思いや考えが深まり、相手に伝わる。相手は、心を込めて聞こうとする。

・グッドリスナーを育てるために、相手のことをよく知ろう、相手を大事にしようとする態度を育てる
・スピーチでは、実態に合わせてセンテンスの数を検討する
また、写真やイラストを活用して、読むのではなく、話すように指導すること
・アクティビィティは、児童が達成感を感じられるような工夫や手立てを考えること
例　Information Gap を活用　道案内などで有効
・子供は使うことを通して身に付けていくので、使いたくなる場面の設定、教材を心がける。
・単元、単位時間の中に必然性（知りたい、伝えたいという児童の気持ち）をもたせること
・Small Talk での留意点
反応する基本的な表現を入れること
誰もが大体わかる内容にすること
ニュースなどを活用し、リアルタイムな内容にすることもよい
先生自身の体験なども効果的
発展⇒高学年の児童も small Talk に挑戦
・計画した単元、単位時間における活動が Goal に向かって関連付けられているか再確認
・「外国語科・外国語活動」の指導と評価についての研修会の充実

（５）授業スタイルと評価方法の一体化
・単元で１枚の振り返りカード
・本時のねらいやキーセンテンスの理解度について確認
・今までできなかったことができるようになったかに注目させる評価の工夫
⇒Can do リストを取り入れた評価カードの検討
・児童が授業後達成感をもてるよう、自分の目標を書かせる、評価基準をあらかじめ明確に示すなどの工夫をする
・他教科・領域との関連付け
・過剰な評価を避け、学校だけで学習している児童の実態を見ながら、学習を進めていく。
・授業スタイルごとの評価方法の模索
・小中の英語の教科書から関連性、身に付けさせておくべきことの把握

５　研究組織

（１）校長　副校長　研究主任
校内研究の進行確認、会計監査、講師との連絡などの渉外事務
（２）研究・研修部
校内研究及び研修の企画・計画、指導案形式の検討、研究仮説・構想図の検討、ＨＰや通信の発行, ICT 機器の管理、環境整備
（３）研究全体会
全教職員による協議会を行い、研究の内容や方法について共通理解を図る。
（４）研究分科会　（７分科会）
各分科会からの提案授業の検討、実施

６　研究構想

H30 年度　研究構想図

H30 年度　研究主題

外国語に慣れ親しみ、すすんでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～授業スタイルの確立と単元計画の作成を通して～

研究仮説　外国語活動、外国語科で授業のスタイルを確立したり、実態に合った単元計画を作成したりして、学校全体で学び方を共通理解することで、より段階的に外国語に慣れ親しむことができ、外国語でのコミュニケーションに自信をもち、コミュニケーションを図るために思考する子供の姿が増えるであろう。

目指す児童像

（１）すすんで学習する子　学びに向かう力, 人間性等に関する目標
外国語や外国の文化に興味や関心をもって、取り組む子
自分の気持ちや考え方を伝えたいという思いをもって活動するする子

（２）外国語に慣れ親しむ子　知識・技能に関する目標
外国語や外国の文化にふれる活動を通して、コミュニケーションの大切さに気付く子

（３）コミュニケーションを図ろうとする子
思考力・判断力・表現力等に関する目標
コミュニケーションを行う目的や場面に応じて、必要な言語材料を選び、相手に伝わるよう、思考・判断しながら表現する子

H30 年度から
「知識及び技能」
「思考力、判断力、思考力」
「学びに向かう力、人間性等」
についての評価方法の実践

H27, 28 年度より
「ICT 機器の活用」
「考えるすべ」
「学習のわざ」「学級力」

授業スタイルの確立

昨年度の振り返りより
（１）環境整備
（２）児童の実態と教員の意識調査
（３）授業における課題の集約
（４）他教科・領域との関連付け

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方に基づいた各学年の指導内容

他教科で身に付けた
「学びに向かう力, 人間性等」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」

Ⅱ　実践の記録

第４学年　指導案「 Do you have a pen？ 」

１　単元名　　Let's Try！２ Unit５"Do you have a pen ?"

２　単元の目標

(1) 英語によるコミュニケーションを楽しみながら、持ち物を尋ねたり答えたりしようとする。

（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

(2) 自分に必要な物を相手が持っているか、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

（外国語への慣れ親しみ）

(3) 外来語とそれに由来する英語の違いに気付く。

（言語や文化に関する気付き）

３　単元の評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語への慣れ親しみ	ウ　言語や文化に関する気付き
①　欲しい物や必要な物があるかどうか質問したり答えたりして伝え合おうとしている。 ②　相手に伝わるように工夫して発話しようとしている。	①　文房具や動物の言い方を聞いたり言ったりしている。 ②　必要な物があるかを質問したり答えたりする表現を聞いたり言ったりしている。	①外来語と英語の音声の違いに気付いている。

４　言語材料

表現　・Do you have a ~?

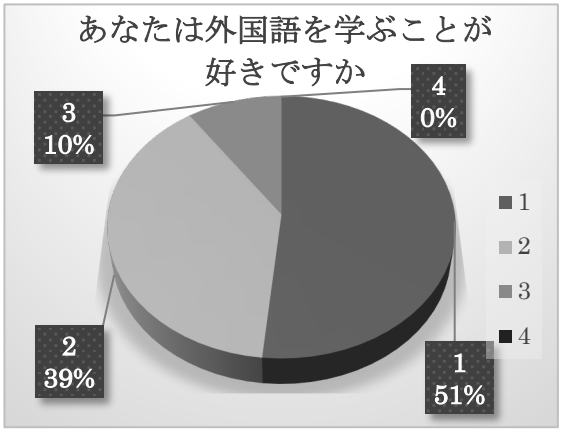
語彙　・色（white, black, red, pink, orange, blue, yellow, green, purple）

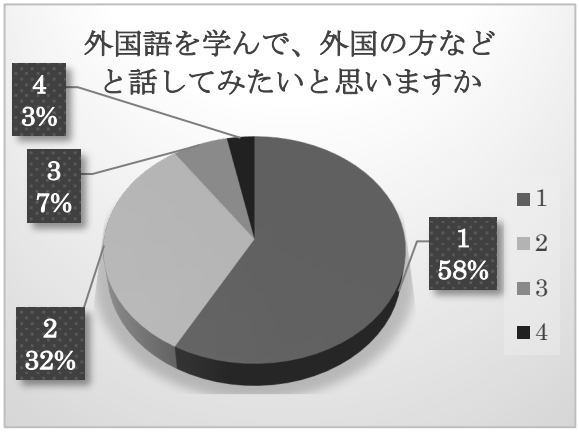
・動物（dog, cat, bird, butterfly, fish）

・文房具（pen, pencil, eraser, ruler, glue stick, stapler, pencil case, notebook, marker, pencil sharpner,scissors, sticker)

５　児童の実態

年度初めの外国語に関する意識調査（H30 年度１学期実施）の結果から、第４学年には外国語を学ぶことについて好意的な児童が多いことがわかった。一方で、「外国の方と話してみたいか」「外国の方の話を聞いてみたいか」の問いには、両方「思う」と答えた児童の割合が全体の半分以下だった。ここから、外国語を学ぶことは大切だと考えているが、実践する自信がない児童が多いのでないかと思われる。また、「自分の思いや考えを相手に伝えてうれしかったことや、相手の考えをもっと知りたいと思ったことはあるか」の問いにも否定的な回答が多かった。これは聞き手の反応も関係していて、コミュニケーションの改善が必要なのではないかと考えた。





1　はい　　2　どちらかといえばはい　　3　どちらかといえばいいえ　　4　いいえ

次に、個々の回答を分析していくと、外国語でコミュニケーションを図りたいと考える児童は、外国語を学ぶことは楽しいと考え、反対に、外国語でコミュニケーションを図りたくないと考える児童は、外国語を学ぶことは楽しくないという回答を出しており、２つの質問に連動性があることが分かった。そこで、本学級では「アメリカに帰国した友達に英語でメッセージを送る」という年間を通した目標を立てて外国語活動に取り組むことにした。そうすることで「英語を上手に話したい。」「英語で気持ちを伝えたい。」と考える児童が増え、外国語を学習する意欲が高まるのではないかと考えた。しかし現段階では、相手に気持ちを伝える方法が分からず、戸惑っている様子の児童もまだまだ見られる。できるだけ多くの児童に、外国語でのコミュニケーションの楽しさを知ってもらい、外国語を学ぶことを好きになってもらいたいと願う。

６　研究主題に迫るための手立て

（１）慣れ親しむための環境整備について　研究の内容－（２）より

外国語への興味関心を高めるため、学年フロアに文房具や会話文など単元で必要な英語を掲示したり、黒板に会話文を掲示したりして、安心して発話を繰り返せるようにした。また、ジェスチャー表現を推奨することで、外国語でのコミュニケーションを楽しいものだと感じることができるようにした。

（２）１単位時間における目標の明確化、評価方法について　研究の内容－（４）（５）より

単元の初めに、単元のゴールと全４時間のねらいを明確にした。そして、本単元で必要な会話の見通しをもたせた。単元のゴールをペア学年の「２年生にカードをプレゼントする」と設定し、ゴールに向かって必要な目標を１時間ごとに明確にしながら授業を進めた。

単元で１枚の振り返りカードを使うことで、毎時間のねらいや振り返り、会話文や文房具などの授業に必要な英語が同時に確認できるようにした。また、覚えた英単語のチェック欄を設け、理解度も把握できるようにした。

（３）授業スタイルついて　研究の内容－（４）より

来年度以降、授業時数が増えることから、担任のみでの授業スタイルを提案する。英語を正確に発音させるために、ＣＤ、デジタル教材やＡＬＴが発音している動画を活用する。また、会話の様子を伝えるため、パペットを使って担任が一人二役を演じ、会話のデモンストレーションを行う。

7　単元の指導計画と評価計画

時	目標	主な学習活動	言語材料	評価規準
1	○単元のゴールを知る。 「２年生にカードをプレゼントする」 ○自分が欲しい物を相手が持っているかどうかを質問したり答えたりする。 “ Do you have a ~?” “ Yes, I do. / No, I don't.”の表現を知る。	○Small Talk ○Presentation ・カードの紹介 ○Practice ・会話文 ・文房具の名前の発音を聞く ・色を発音 ○Activity ・キーワードゲーム “ Do you have a ~?” “ Yes, I do. / No, I don't.” の表現を発話する。	○表現（児童の発話） ・ Do you have a ~? ・ Yes, I do. / No, I don't. ○語彙（児童が使う語彙） ・色 ・文房具	◎アー① （観察・振り返りカード） ◎ウー① （観察・振り返りカード）
2	○欲しい文房具があるか質問したり答えようとしたりする。	○Small Talk ○Practice ・会話文 ・文房具の名前の発音する。 ○Activity1 ・キーワードゲーム ・動物の名前を発音する。 ○Activity2 ・動物カード集め ・メッセージカード集め	○表現（児童の発話） ・ Do you have a ~? ・ Yes, I do. / No, I don't. ○語彙（児童が使う語彙） ・動物 ・文房具	◎アー① （観察・振り返りカード） ◎イー① （観察・振り返りカード）
3 （本時）	○必要な物があるかどうか質問したり答えたりする。 “ Do you have a ~?” “ Yes, I do. / No, I don't.” の表現を使って、伝え合っている。	○Small Talk ○Practice ・文房具の単語 ○Activity1 ・文房具カード集め ○Activity2 ・カード紹介	○表現（児童の発話） ・ Do you have a ~? ・ Yes, I do. / No, I don't. ・ I have a ~. ○語彙（児童が使う語彙） ・文房具	◎アー② （観察・振り返りカード） ◎イー② （観察・振り返りカード）
4	○プレゼントカードを紹介する。	○Small Talk ○Practice ・プレゼントカードの紹介練習 ○Presentation ・プレゼントカードの紹介	○表現（児童の発話） ・ It is a ~. ・ I have a ~. ・ I like ~. ○語彙（児童が使う語彙） ・文房具 ・動物 ・色	◎アー② （観察・振り返りカード）

※3，4 時の間に「学級活動」でプレゼントカード作りをする。

8　本時案（３／４）

(1) 目標

・自分に必要な物を相手が持っているかを質問したり答えたりする表現を聞いたり言ったりしている。

(2) 展開

	○児童の活動	・指導者の留意点　◎評価　☆教材・教具
挨　拶 (３分)	1　Greeting ○先生と挨拶をする。 ○お互いに挨拶をする。	・笑顔で明るい雰囲気で挨拶をする。 ・良い挨拶の例を紹介する。
導　入 (７分)	2　Small Talk ○物をもらうときの表現を確認する。 Goal：文ぼう具カードを集めよう 3　Practice ○文房具の英語での言い方を確認する。 ○" Do you have a ~?" " Yes, I do./ No, I don't." の言い方を確認する。	研究の内容－（４） 担任とパペットで会話のデモンストレーションを行う。 ☆パペット ・既習の単語を繰り返し発音させ、自信をもって言うことができるようにする。 ・a/an の違いにも少し注意しながら練習させる。
展　開 (30 分)	4　Activity 1 ○文房具カードを集める。 S1：Do you have a ~ ? S2：Yes, I do./ No, I don't. Here you are. S1：Thank you. Bye. S2：Bye. 5　Activity 2 ○持っているカードを紹介する方法を確認する。 S1：I have a ~ , ~ ,and ~ . ○自分が集めたカードを班で紹介する。	・児童には同じ種類のカード８枚持たせ、次時のカード作りに必要な文房具を揃えるように指示する。 ・相手が持っていなくても、交換ができるまで、別の文房具はないか、何度も尋ねていい事を伝える。 ◎必要な物があるか、質問したり答えたりする表現を聞いたり言ったりしている。(行動観察・発言・振り返りカード) ・文房具の英単語のインプットが不十分な児童のために、英単語を黒板に提示しておく。 ☆文房具カード ・あまり集めることができなかった児童のために隣の友達とカードが共有できることを伝える。
まとめ (５分)	6　まとめと振り返り ○振り返りカードを書く。 ○書いた内容を発表する。 ○挨拶をする。	・自己評価させることで、成果や課題を見い出し、学習への目的意識や意欲を高めていくようにする。 研究の内容－（４） ふりかえりカードの工夫

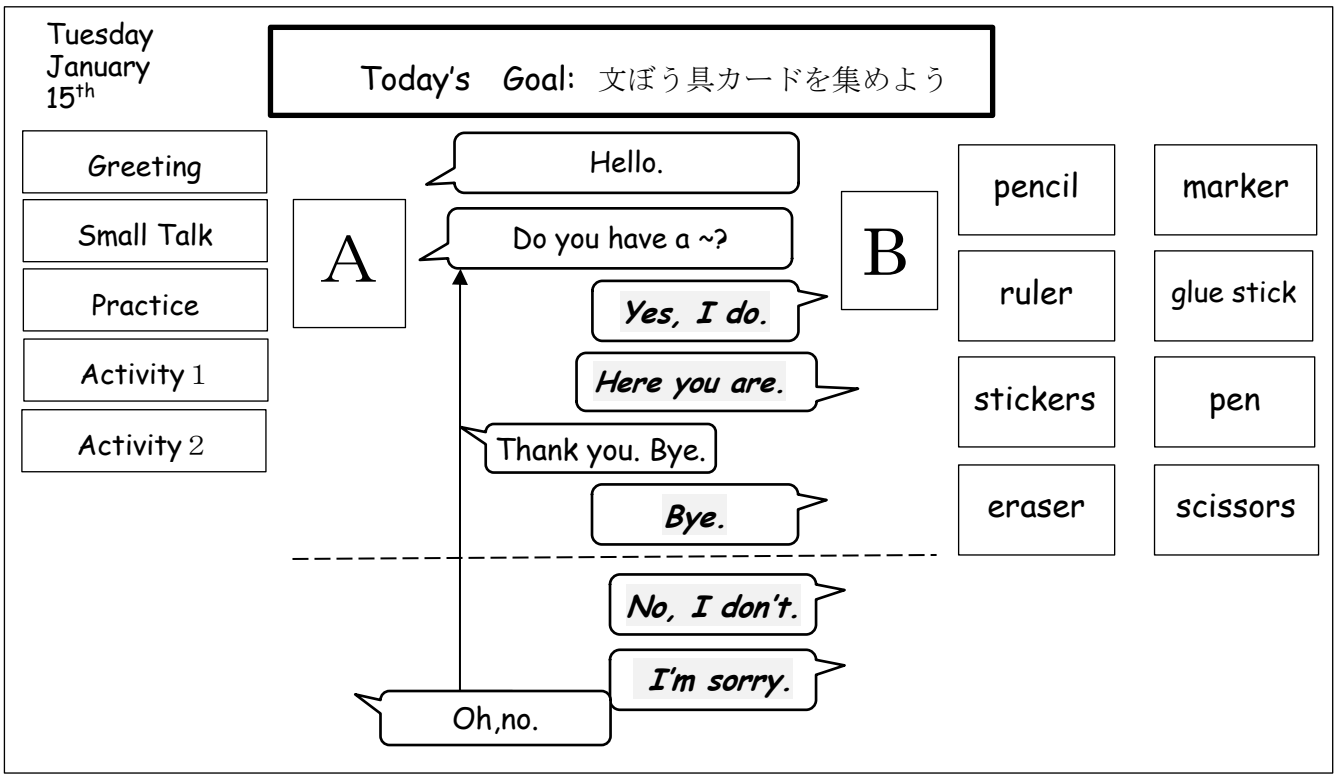
９　授業観察の視点

○ＡＬＴ不在で担任のみの授業スタイルとして適切だったか。

○児童が英語を通してコミュニケーションを楽しむことができていたか。

１０　板書計画・教材教具

〈板書〉



〈教材・教具〉

○単語カード掲示用　○ＰＣ　映像資料　○文房具カード、動物カード　○パペット

成果

○パペットを使ったスモールトークは効果的。

○既習事項を扱い、児童がカードを集めようと挑戦していた。

○聞かなければいけないという場面づくりは良い。

○児童がコミュニケーションを楽しんでいた。

課題

○活動により必要感をもたせた方が良かった。

○授業の流れを示すカードに必要性が感じられない。

○児童が使う英語の量が少ない。

○児童・教師共に負担になることは省く。

○どんな言葉が聞こえたかを英語から日本語に変換させる必要はなかった。

第６学年　指導案　　「Let's go to Italy」

１　単元名　　Hi,　Let's go to Italy.

２　単元の目標

・自分の思いがはっきり伝わるように、調べた国について発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりしようとする。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）

・調べた国や行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。
（外国語への慣れ親しみ）

・世界には様々な人たちが様々な生活をしていることに気付く。
（言語や文化に関する気付き）

３　単元の評価規準

ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　外国語への慣れ親しみ	ウ　言語や文化に関する気付き
○おすすめの場所や食べ物、文化についての思いが伝わるように、調べた国について発表している。 ○相手が伝えようとしている内容や思いを受け止めようとして、聞いている。	○自分が調べた国や文化について、言っている。 ○行きたい国について、尋ねたり言ったりしている。	○世界の国々には、様々な文化があり、様々な生活をしていることに気付いている。

４　言語材料

・Where do you want to go?
・I want to go to ～.
・Let's go to ～.
・You can　see / eat/en ～.

５　単元について

本単元では、世界の国々とその国の名物や文化を知ることで、異文化への興味・関心をもたせる。様々な国についての知識を深め、おすすめしたい国について発表する意欲が高まることで、コミュニケーションツールである英語の習得の必要性を感じさせる。

これまで、オリンピック・パラリンピック教育や国語科と組み合わせた「国のよさを伝えるパンフレットを作ろう」で、武蔵野市担当国についてパンフレットを作成してきた。それらを活用し、自分が調べた国と ALT におすすめしたい理由を紹介する活動を中心に進めていく。

既習内容である can を再び活用しながら、英語で調べた国を紹介する表現や尋ね方を知り、友達とコミュニケーションを図る楽しさを体験する。

また、世界の国名などの言い方に慣れ親しみ、それぞれの国の食べ物や名所などの文化を題材として扱うことで、調べた国についてもっと知ってもらいたいという思いや希望（児童が相手を意識しながら本単元の終末まで学ぶ意欲となる）をもたせ、表現させたい。

様々な国の生活や文化に触れながら、世界の国々に視野を広げ、日本との生活や、文化の違いについて理解し、他の文化を広く受け入れようとする態度を育てる。

6　児童の実態

真面目に学習を行い、学んだことを身に付けていこうとする児童が多い。グループで協力したり話し合ったりする活動が好きである。みんなの前で発表する学習は社会や総合的な学習等で行っているが、英語については初めてである。新しい単語や文を学んだ後、繰り返し練習し、自信をつけさせないと挙手が増えないことがある。

外国の方と積極的に話したいという気持ちをもっているが、６年になって使う表現や言葉も増えてきたため、苦手意識をもち始めてきた児童もいる。そのため、たくさんの内容を詰め込まず、確実に身に付けさせる手立てをとっていきたい。

今回の活動で世界の国々についての理解を深め、自分のコミュニケーションの幅を一層広げる喜びを味わわせたい。

7　研究主題に迫るための手立て

（１）授業スタイルと単元計画における手立て

・繰り返しながら表現や語彙を増やす

外国語というだけで、聞くことにも話すことにもまだまだ抵抗がある児童が多い。１時間の学習の中でも、導入時は、他の教科や単元で学んだことに関連付けて、新しい表現方法や語彙を提示する。展開時も、ゲームのルールは同じだが、使う表現や語彙を変えるなど、抵抗なく取り組める内容を繰り返しながら、少しずつ新しい表現や語彙に親しませる。また、ゲームの内容を検討し、思考や判断が伴うような活動にすることで、より主体的に取り組めると考えた。単元計画についても、１時～４時に向けて、既習内容に関連したインプットからアウトプットとなるよう計画した。

（２）コミュニケーションを図ろう（英語で話したり、英語を聞いたりする必然性をもつ）とするための手立て

・目的を明確にした取り組み

単元の計画にあたり、夏休みの課題としたパンフレット作りと関連付けることで、伝えたいという思いをもたせることができるのではないかと考えた。武蔵野市が担当した国（オーストラリア、コソボ、イラン、レソト、ドミニカ共和国、ルーマニア）は、文化や名所について児童も詳しく知らない国が多い。それらの国について調べた児童には新たな発見があり、そのことをもっと多くの人に知ってほしいという思いが生まれている。本時の導入では、ALT が担当国について詳しく知らないと切り出し、ALT に英語で紹介しようという目的をもたせる。紹介するためによく聞き、練習して身に付ける必然性が生まれるのではないかと考えた。

8　単元の指導計画と評価計画

時	目標	主な学習活動	言語材料	評価規準
1	○国名の言い方と行きたい国を尋ねたり、言ったりする表現を知る。また、学習の見通しをもつ。 【ALT】	○Small Talk ○Words ＆ Chants ＣＤ1 「ドイツじゃなくて Germany」 America, India, France, Japan, Greece, China, Spain, Australia, Egypt, Brazil, ○Activity1 ・OH, NO! ゲーム（国名を使う） ○Activity2 ・国旗当てクイズ AlT: Where do you want to go? T1: Two colors. Yellow and red. S: It's China. T1: I want to go to China.	○表現（児童の発話） ・It's 国名. ○語彙（児童が使う語彙） ・America, India, France, Japan, Greece, China, Australia, Egypt Brazil, Spain,	○相手が伝えようとしている内容を受け止めようとして、聞いている。
2（本時）	○行きたい国を尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。 【ALT】	○Small Talk ○Words ＆ Chants ♪Let's go to Italy. Kosovo, Lesotho, Iran, Romania, Dominican, ○Activity1 ・OH, NO! ゲーム S: Where do you want to go? S: I want to go to 国名. ○Activity2 ・フルーツバスケットゲーム S: Where do you want to go? S: I want to go to 国名.	○表現（児童の発話） ・Where do you want to go? ・I want to go to 国名. ○語彙（児童が使う語彙） ・Kosovo Lesotho, Romania Iran, Dominican,	○行きたい国について、尋ねたり言ったりしている。 ○相手が伝えようとしている内容や思いを受け止めようとして、聞いている。
3	○調べた国を紹介する表現を知り、プレゼンテーションの準備をする。 【ALT 不在】	○Small Talk ○Words ＆ Chants 「ドイツじゃなくて Germany カラオケバージョン」ＣＤ1 Nice, Good, Cool, Wonderful, Beautiful, Excellent, ○Activity1 ・ポインティングゲーム T: It's Nice! ○Activity2 ・グループごとに、プレゼンテーションの準備をする。	○表現（児童の発話） ・Let's go to 国名. ・You can ___. ○語彙（児童が使う語彙） ・eat, see, ・Nice, Good, Cool, Wonderful, Beautiful, Excellent,など	○自分が調べた国や文化について、言っている。
4	○自分達の調べた国のよさを紹介し、尋ねたり答えたりする。 【ALT】	○Small Talk ○Words ＆ Chants ♪Let's go to Italy.カラオケバージョン ○Activity1 ・調べた国について、プレゼンテーションをする。 S: Where do you want to go? S: I want to go to 国名. S: You can see ___. S: You can eat ___. S: It's Nice! Good! Cool! Wonderful! S: Let's go to 国名. Thank you.		○おすすめの場所や食べ物、文化についての思いが伝わるように発表している。 ○他のグループの発表を聞いて、世界の国々には、様々な文化があり、様々な生活をしていることに気付いている。

9　本時案（2／4）

(1) 目標

・行きたい国を尋ねたり、言ったりする表現に慣れ親しむ。

(2) 展開

	○児童の活動	・指導者の留意点　◎評価
導入	1　Greeting ○あいさつをする。 ○日付、天気の確認をする。	・笑顔で明るい雰囲気で挨拶をする。
展開	2　Words ＆ chants ○♪Let's go to Italy を聞く。 ○調べた国の言い方を知る。 Kosovo, Lesotho, Iran, Romania, Dominican,	・初めての曲なので、曲のスピードを変えながら聞くことに重点を置く。 ・調べた国名の言い方を知り、日本語での言い方との違いを確認する。 ・国旗と国名を関連付けながら、理解を深める。
	Goal：行きたい国を尋ねたり、言ったりする表現を身に付けよう！	
	3　Teacher Talk ○　ＡＬＴによるプレゼンテーションを聞く。	・資料を映しながら、プレゼンテーションをすることで、表現内容を推測させる。 ・プレゼンテーションと既習内容を振り返らせ、紹介するために、"Where do you want to go?" "I want to go to"などの表現を身に付けたいという思いを出させ、目標に向けた動機付けとする。
	4　Activity 1 ○OH,NO ゲームをする。 A:　Where do you want to go? B:　I want to go to 国名. AB　Yeah! 国名.（同じカード） AB　Oh ,no.　（違うカード）	・相手と向き合い、表情やジェスチャーを大事にしながらやりとりすることに意識を向けさせる。また、Yeah の他に Nice, Good, Cool, Wonderful, Beautiful, Excellent,などの形容詞も使えることを示し、語彙を増やしていく。 ◎【親しむ】行きたい国を尋ねたり言ったりしている。
	5　Activity 2 ○フルーツバスケットゲームをする。 ○T1 と ALT とのやり取りを見て内容を理解する。 A:　Where do you want to go? B:　I want to go to 国名.	・手本を見せることで、活動の流れを理解しやすくする。 ・Activity 1 とは違い、話し手はより大きな声で話すこと、聞き手側は、国名までよく聞くことを意識させる。 ・ゲームに慣れてきた所で、２つ以上国名を言ってよいなどの追加ルールを提示し、意欲付けとする。 ◎【関】相手が伝えようとしている内容や思いを受け止めながら、聞いている。
まとめ	6　まとめと振り返り ○振り返りカードを書く。 ○書いた内容を発表する。 ○挨拶をする。	・紹介する時に使えそうな表現について、数人に発表させる。 ・明るい雰囲気で挨拶をする。

１０　授業観察の視点

○授業スタイルと単元計画は、目標の達成に向けて適当であったか。

○コミュニケーションをとりたいと思える活動であったか。

１１　板書計画・教材教具

〈板書〉

〈教材・教具〉

○ピクチャーカード掲示用　（国旗）

○ＰＣ　デジタル教科書　HI friends　Ｐ２１　♪Let's go to Italy.

Teacher Talk　プレンゼンテーション用映像資料

○ＣＤ　「ドイツじゃなくて Germany」「ドイツじゃなくて Germany カラオケバージョン」

○国旗カード（児童配布用）

成果

○流れを黒板に示してあったこと、今日の目標が明確であったことで、児童が見通しをもって取り組んでいた。

○他教科と関連付けられていたことがよかった。

課題

○評価はできるようなったことを価値付けることで、児童に達成感が生まれる。

○Activity の選択・人数・時間を工夫して必然性をもたせる。知りたい、伝えたいという子供の気持ちを意味付けることで、主体的になる。

○聞かせる input に重点を置いて、より多くの音声に触れさせる。

○All イングリッシュである必要はない。場面によって日本語を使う。

Ⅲ　研究の成果と課題

成果と課題

（１）外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方に基づいた発達段階に応じた指導内容の共通理解について

〇外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方について、理解が深まった。

▲各学年の発達段階や学習状況によって、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方が異なることも分かり、その都度共通理解を図る必要性を感じた。

（２）環境整備について

〇学習内容に合わせてワールドルームの掲示物や、学級・校内表示を進めた。

〇ＩＣＴ機器やワークシートの工夫を通して、可視化、焦点化を図ることができた。

〇よりよいコミュニケーションのポイントについて、共通理解を図り掲示した。

▲中高学年では、リアクションワードの掲示をしたが、内容の検討、共通理解が不十分である。どのような児童の姿を目指すのかを明らかにし、それに関係するリアクションワードとする。

▲学校全体で英語に向かう雰囲気作りは、様々な場面、教科と関連付けられそうなので、引き続き継続していく。

▲児童にとって公平な学習環境を整えることについては、どのような場面でも配慮していく必要がある。そのために、教材の充実とデジタル教科書の効果的な利用に努める。

（３）児童の実態と教員の意識調査、授業における課題の集約について

〇教員の意識調査により、不安に感じていること、疑問に思っていることが明確になり、それぞれについて確認できた。

〇年度初めの６月と年度終わりの２月に児童（３年～６年）への意識調査をした。それにより、児童の意識の変容、楽しく感じる理由、楽しく感じない理由を把握することができ、来年度の研究について考える視点をもつことができた。来年度、内容を吟味し、継続していく。

〇授業実践後に、学年ごとに授業における課題集約を行った。授業の進め方や教材の活用方法といったすぐに改善できること、教材準備やＩＣＴ機器の活用方法、ＡＬＴとの役割分担など全体で確認していく必要があることについて把握することができた

〇英語教育アドバイザーの方に授業参観と課題の整理をしていただき、個々の改善点についてアドバイスをいただけた。

（４）授業スタイルの確立について

〇授業の流れ、基本的なあいさつ、指示、ほめ方（クラスルームイングリッシュ）などの確認ができた。また、黒板掲示、教室掲示などで見通しを持たせることができた。

▲指導内容・計画を意識するあまり、児童の実態、思考・学びの流れに沿っていない場面が見られた。主体的で深い学びにつながるよう、実態に合わせた授業計画、指導計画の検討が必要である。

▲今年度講師の先生からいただいたアドバイスを整理し、本校児童の実態、目指す児童像に沿って、重点的に指導する内容を検討していく。

▲授業スタイルを内容別に検討が不十分であり、適した評価方法を確立できていない。

▲地域のボランティアの効果的な活用ができなかった。児童に英語である必要感をもたせ、より多くのコミュニケーションの機会をもたせるためには、外国の方にきていただけるとよい。

（５）授業スタイルと評価方法の一体化について

〇単元で１枚の振り返りカードを作成し、学習した内容を振り返れるよう工夫した。

〇Can do リストを取り入れた評価カードを作成し、身に付いたことがわかるようにした。▲様々な形式の振り返りカードを使ったので、学年によって評価内容、方法にばらつきがあった。もう一度、ねらいを明確にしてから、振り返りカードの作成をする。

▲小中の英語の教科書から身に付けさせておくべきことの把握が不十分で、系統的に指導できていない。指導内容の理解が必要である。